（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人　香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岐阜県関市平成通2丁目7番12号		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200345-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族と利用者様と共に、穏やかな生活を過ごしていただける施設を目指しています。最期を安らかにいかれるよう、家族と共に看取りを行っています。認知症になっても利用者様それぞれが出来ることを支援し、施設の中で役割を持ちながら満足のいく生活が送れるように努めております。また与えるだけのケアでなく利用者様と「心の通うケア」「思いに寄り添うケア」を心掛けております。それぞれの利用者様が馴染みの関係を築き、楽しい生活が送れるように努力しております。

本人の希望や意向に寄り添い、実現できるようにヘルスケアに取り組んでいる事業所である。意思表示のできない方には、表情やしぐさで意向を把握し、本人の喜ぶ言葉かけ、嫌な言葉などを申し送りシートで職員が把握し、ケアに役立てている。認知症症状により落ち着かない方には、職員間で協力し散歩を実施し、気分転換を図るように支援している。入院時におむつ使用だった方がトイレに行けるようになる事例もある。利用者の思いや身体状況は、リハビリ、栄養、歯科などの多職種や、家族にも共有され、目標にむけて取り組まれている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『わたしたちはすべてのかたに喜んでいただけるヘルスケアを提供します』・「地域包括ケアシステムの中核を担う」をテーマとして、活動をしている。地域包括ケアシステムとは、をカンファレンスで共有し、朝礼時に目標の唱和を行って共有している。	地域包括ケアシステムの取り組みの中、事業所の役割、機能の認識が深まるように研修を実施している。認知症ケア、ACP（人生会議）の作成を目標に挙げ、研修により職員に周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会の企画、家族間の交流。中学生の職場体験を通し、認知症の方への理解、地域で福祉の仕事に進んで頂けるように体験学習の場の提供をしている。コロナアフター後以前の様に交流が持てるよう進めて行く予定。	近隣の学校から職場実習、職場体験を受け入れている。近所を散歩する際には近隣の方とのあいさつを通した交流がある。花や野菜の差し入れを受けることもある。コロナ禍で地域活動が行えない状況であった。	普段の自治会との繋がりを活かし、今後さらに地域の一員としての役割を期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動を報告し、構成員の方からのご意見を参考としながら、有事の際の応援体制確保や無駄を削減し、利用者に関わる時間を作れるよう検討している。実際の避難の際には近所の方に協力していただけるよう、避難実施の報告・取り組みへの意見を頂いている。	事業所内で取り組んでいる5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躾）についての具体的なアドバイスをもらい、活動を継続している。避難訓練についての報告、相談を行い、実際に避難した際にも自治会に連絡を取ることができた。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼と参加。介護相談員の受け入れ。有事（災害等）の際の連絡と報告。	市からの研修案内をメールで受け取り、随時参加している。市や包括支援センターと相談、情報交換を行い、困難事例に積極的に受け入れる体制がある。在宅復帰の事例でも協力関係を活かし、取り組まれている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、入居時に身体拘束排除に向けた説明を行っている。また、全職員に対して身体拘束についての勉強会を実施している。家族の協力や職員と共に外出できるよう配慮している。	身体拘束廃止のフローチャートを作成し、毎月委員会を開催している。年に2回研修を実施し、スピーチロックなどの具体的なケースについて検討されている。玄関の施錠はメリットとデメリットを職員間で検討し、都度散歩にでることで対応している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い知識を得ている。また、そのつど虐待について考える機会を設け、虐待防止に努めている。	毎月虐待防止委員会を開催。全高齢者虐待防止チェックリストを無記名で実施し、分析している。言葉遣いが与える影響について職員間で注意喚起し、虐待の芽の防止に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村からの成年後見制度の学習会の案内を職員に伝え、興味を持ってもらう。権利擁護に関する制度が活用できるよう研修で得た知識を深めるよう努力している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談時に書類を提示し、説明を行い疑問点はその都度対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見についての意見箱を設置している。苦情窓口の提示を書面で説明している。満足度調査を実施し、頂いたご意見をカンファレンスで共有し対策を取っている。	家族にむけて満足度調査を郵送で実施している。6割以上の返信をうけている。要望は職員会議で共有し、必要に応じて法人全体で把握し、検討されている。普段から顔の見える関係性作りに、毎月家族に通信を発行し様子を報告している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月に1度、全体カンファレンスや委員会活動時に意見や提案等を取り入れている。半年に1回の人事考課面談を行っている。	物品の配置を改善したり、必要な用品を購入したりし、職員の業務効率化に繋げている。職員にアンケートを実施し、介護用ロボットの導入についても検討されている。5S活動を通し、職員の主体性を尊重している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、目標を持って働き、半期に一度の人事考課面接を実施している。職員個々の希望の休みが取得できるよう配慮している。常に職員への感謝の言葉を伝えられるよう意識している。	家庭や職員の諸事情に合わせて、勤務時間の希望、業務内容の確認を行っている。常に職員への感謝の言葉を管理者は伝え、燃え尽きを防止している。ウナギ弁当、お菓子などを年に数回職員に支給、激励している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員教育プログラムをもとに、新入職者・中途入職者研修を実施し、入職後はコミュニケーション会等実施している。また、年間を通した研修会に参加できるよう配慮している。	職員の経験年数に応じた研修体制がある。新人研修の他、リーダー研修、中堅職員研修などがある。年間に回数多く計画し、職員が参加しやすいように配慮されている。必要な研修について管理者と話しあい、費用助成をうけて外部研修に参加できる体制がある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関市の連絡会議に参加する等、ネットワーク作りに努力している。研修会への参加を通して、各事業所の取り組み状況の共有を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にする者同士として、台所での手伝いや居室の清掃、また一緒に洗濯物等をたたむことを実践している。暮らしの中での会話を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にどのような希望があるのか尋ねている。本人からの聴取が難しい場合は、家族の想いを聞き、沿うように検討している。またACPの活動を行っている。	持病や生活習慣など把握し、個別に声掛けを合わせ、工夫しながら意向の確認を行っている。食事場所、時間の希望や感情の変化を個性として受け入れ、カルテにて職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人についてのアセスメントをしっかり行い、定期的にモニタリングを行い、ケアプラン作成に努めている。多職種連携している。	多職種により意見を集めて、計画に反映している。変化のある事、注意が必要な事、出来ると思える事などを職員がシートに書き込みを行い、モニタリングを実施している。家族へは電話や来所時に意向を確認し、同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを開催し、情報共有、職員間の報告、連絡、相談を行い、ケアプランにつなげている。ケアプランの内容を日々記録として残している。特に個別機能訓練を反映したケアプランの実施をしており各々が個別リハに取り組めるように支援している。	電子カルテを使用している。日々の記録、介護計画の実施状況、個別機能訓練に関する事項等、タブレットを使用し職員間で情報共有している。確認が必要なことは申し送りシートを活用し、把握している食事の様子、皮膚状態、移乗方法や本人の思いや意向を職員間で共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	直接の面会が制限されている中でもオンラインでの面会など、家族と会える工夫をしている。また、外出困難で理美容など御希望の方については、理美容店と交渉し来所していただいている。	家族で通院の支援ができない場合は、職員が対応している。利用者が希望されている、馴染みの場所へ出かける支援を行い、お寺参りを行った。隣の通所介護を利用している家族と面会できるように、施設の行き来を支援した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族以外との面会ができるような体制をとっている。またコロナ禍以前は、ボランティア、幼稚園交流など、施設に来て頂く機会を確保していた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望されるかかりつけ医と連携し、相談しながら一人ひとり対応している。	家族の通院支援の際、普段の様子を記入した情報シートを医師に提供し、返信用コメントをもらい情報交換を実施。入居時には、従前のかかりつけ医に、訪問診察が可能かを確認し、継続して医療を受けられるように支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、地域連携室と状況把握を行い、関係づくりに努めている。メルタス等電子化オンラインでの情報共有に努め、スピーディーに対応が出来るようにしている。	情報共有できるオンラインシステムを利用し、入院中の状況を把握している。退院後に受け入れ可能な全体像を早めに家族や病院に説明し、話し合っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面談時に施設の方針を説明し、終末期のあり方を家族と話し合い、書面で提示してもらっている。また、定期的に終末期の意向を確認している。その方針にしたがって支援している。	ACPに沿った看取りケアを実施している。入居時に意向確認後、日常の場面で折に触れて終末期に対する意向を確認している。看取りケアについての情報を、職員に提供している。看取りケア後も職員に対してねぎらいや感謝の言葉をかけフォローしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、その都度体得するよう努めていく。(BLS研修会)		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。またグループ内での連絡体制を確認し、協力が得られるよう配慮している。グループとしてBCP作成に取り組んでいる。	水害の浸水地域のため、8月の大雨では実際に近隣の病院に避難を行った。避難後は自治会へ報告し、安否確認を実施している。法人全体で、災害時の避難支援体制がある。自治会の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助・着替え・入浴介助の際プライバシーの確保に努めている。一人ひとりに合わせた対応ができるように「生活歴」「職歴」「ご性格」を理解するように入所時から心掛け、「NGワード」「推奨ワード」等スタッフ間で共有し、利用者様が落ち着いた生活ができるように心掛けている。	個人情報保護の研修を実施している。普段の関わりの中で、本人が嫌がる言葉、喜ぶ言葉を把握し、申し送りで職員は共有しケアに活かしている。同性介護を希望する利用者には、同性職員で対応できるように配慮されている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話をとるよう心掛けている。本人が何か希望された時は、希望に沿うように配慮し、可能な限り寄り添い対応できるよう努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの１日のリズムを把握した上で、希望に沿う事ができるよう努力している。利用者の意向で起床や就寝時間をかえている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や体調を配慮しながら、「お米とぎ」「味噌汁作り」や配膳、食後のトレー拭きなど職員と利用者が一緒に家事を行うように取り組んでいる。施設の中でもその方に合わせた役割づくりをするよう心がけている。	テーブル拭き、米とぎ、調理の下ごしらえなど利用者ごとに役割を用意している。畑で野菜を収穫し、近所の方の差し入れの野菜をメニューに取り入れている。利用者と一緒に干し柿、漬物作りや、毎月リクエストに応じ、おやつ作りを実施している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテにて摂取量を記録し、状態把握ができるようにしている。お好きな飲み物を提供している。好みの物を家族様に差し入れの依頼などもし、入所前から嗜好習慣に配慮している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度の歯科衛生士の指導をして頂いているが、その指導に基づいて利用者に合わせた口腔内のケアができるようにしている。利用者のできる事を実践してもらい、できないところに関しては職員が介助をすることで口腔内の清潔保持ができるように支援している（口腔ケアティッシュやスポンジなど）。	自分で出来る方には、歯磨きに誘導し、夜間は義歯を洗浄剤で殺菌している。年に2回歯科検診を実施。口腔ケアに工夫が必要な方には、歯科衛生士がケア方法を指導している。口腔ケアについての勉強会も定期的に実施されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握するように努めている。ケア変更時には、検討会を実施し、ご家族に意見を求めている。特に便意がある方に関しては本人様がトイレですっきりできるようにオムツの方でも意思を確認してできる範囲でトイレ誘導している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴槽の種類があり、その時の状態に応じて、本人の希望に沿えるよう入浴を行っている。またご希望に応じて、入浴剤で気分をリフレッシュして頂けるよう準備している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況を把握し、日中でも横になられるよう声をかけている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報が閲覧できる状態であり、主治医や薬剤師とも連携し、服薬支援を行っている。	内服介助のマニュアルを作成し、ひとりずつの介助方法を共有している。誤薬防止に複数人で確認する仕組みがある。副作用や飲み方について、薬剤師に随時相談し、指導を受けている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業でお手伝いして頂ける方は積極的に参加して頂いたり、趣味が継続できるよう働きかけを行っている。	個別に趣味や生活歴を把握し、日々の活動に取り入れている。畑仕事、園芸、散歩、食器拭きなどで、生活を主体的に送れるように支援している。個人の希望に対し、家族の協力も得ながら趣味活動を継続できるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により、一緒に外へ散歩している。ご家族にご本人の意向をお伝えし、外出の機会を作るなど支援している。ご家族の協力を得ている。	季節の花を観にドライブで外出できる。散歩や近くのコンビニでの買い物、お参りに出かけている。会いたい方との再会を叶えるために、家族に協力を依頼し、実現することが出来ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について個別に対応している。買い物時には、ご自分で支払いを行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして欲しいという御希望の方には、電話をかける等対応している。また、携帯電話から電話がかけれるよう操作方法などの支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作業で絵などの作品を作り、季節感を出す等行っている。	季節に応じた手作りの作品をリビングに掲示している。出かけた際の写真や季節の花を飾り、会話のきっかけ作りとしている。空気清浄機を設置し、随時消毒や換気にて、感染症対策を行っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの前で過ごしたり、廊下へ出たりし自由に移動できるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物などがあれば持参していただき、本人が安心できる生活環境になるよう努力している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でパンツ交換が出来る方には、手の届くところに替えのパンツを置くようにしている。何かにつかまりながら歩行できるような環境をつくれるよう工夫している。		

（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人　香徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岐阜県関市平成通2丁目7番12号		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和6年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200345-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果 Bユニット

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『わたしたちはすべてのかたに喜んでいただけるヘルスケアを提供します』・「地域包括ケアシステムの中核を担う」をテーマとして、活動をしている。地域包括ケアシステムとはをカンファレンスで共有し、朝礼時に目標の唱和を行って共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会の企画、家族間の交流。中学生の職場体験を通し、認知症の方への理解、地域で福祉の仕事に進んで頂けるように体験学習の場の提供をしている。コロナアフター後以前の様に交流が持てるよう進めて行く予定。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動を報告し、構成員の方からのご意見を参考としながら、有事の際の応援体制確保や無駄を削減し、利用者に関わる時間を作れるよう検討している。実際の避難の際には近所の方に協力していただけるよう、避難実施の報告・取り組みへの意見を頂いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼と参加。介護相談員の受け入れ。有事（災害等）の際の連絡と報告。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、入居時に身体拘束排除に向けた説明を行っている。また、全職員に対して身体拘束についての勉強会を実施している。家族の協力や職員と共に外出できるよう配慮している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い知識を得ている。また、そのつど虐待について考える機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村からの成年後見制度の学習会の案内を職員に伝え、興味を持ってもらう。権利擁護に関する制度が活用できるよう研修で得た知識を深めるよう努力している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居面談時に書類を提示し、説明を行い疑問点はその都度対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見についての意見箱を設置している。苦情窓口の提示を書面で説明している。満足度調査を実施し、頂いたご意見をカンファレンスで共有し対策を取っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月に1度、全体カンファレンスや委員会活動時に意見や提案等を取り入れている。半年に1回の人事考課面談を行っている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人事考課の制度があり、目標を持って働き、半期に一度の人事考課面接を実施している。職員個々の希望の休みが取得できるよう配慮している。常に職員への感謝の言葉を伝えられるよう意識している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員教育プログラムをもとに、新入職者・中途入職者研修を実施し、入職後はコミュニケーション会等実施している。また、年間を通した研修会に参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関市の連絡会議に参加する等、ネットワーク作りに努力している。研修会への参加を通して、各事業所の取り組み状況の共有を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にする者同士として、台所での手伝いや居室の清掃、また一緒に洗濯物等をたたむことを実践している。暮らしの中での会話を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にどのような希望があるのか尋ねている。本人からの聴取が難しい場合は、家族の想いを聞き、沿うように検討している。またACPの活動を行っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人についてのアセスメントをしっかり行い、定期的にモニタリングを行い、ケアプラン作成に努めている。多職種連携している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを開催し、情報共有、職員間の報告、連絡、相談を行い、ケアプランにつなげている。ケアプランの内容を日々記録として残している。特に個別機能訓練を反映したケアプランの実施をしており各々が個別リハに取り組めるように支援している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	直接の面会が制限されている中でもオンラインでの面会など、家族と会える工夫をしている。また、外出困難で理美容など御希望の方については、理美容店と交渉し来所していただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族以外との面会ができるような体制をとっている。またコロナ禍以前は、ボランティア、幼稚園交流など、施設に来て頂く機会を確保していた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望されるかかりつけ医と連携し、相談しながら一人ひとり対応している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、地域連携室と状況把握を行い、関係づくりに努めている。メルタス等電子化オンラインでの情報共有に努め、スピーディーに対応が出来るようにしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面談時に施設の方針を説明し、終末期のあり方を家族と話し合い、書面で提示してもらっている。また、定期的に終末期の意向を確認している。その方針にしたがって支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、その都度体得するよう努めていく。(BLS研修会)		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。またグループ内での連絡体制を確認し、協力が得られるよう配慮している。グループとしてBCP作成に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助・着替え・入浴介助の際プライバシーの確保に努めている。一人ひとりに合わせた対応ができるように「生活歴」「職歴」「ご性格」を理解するように入所時から心掛け、「NGワード」「推奨ワード」等スタッフ間で共有し、利用者様が落ち着いた生活ができるように心掛けている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話をとるよう心掛けている。本人が何か希望された時は、希望に沿うように配慮し、可能な限り寄り添い対応できるよう努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの１日のリズムを把握した上で、希望に沿う事ができるよう努力している。利用者の意向で起床や就寝時間をかえている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態や体調を配慮しながら、「お米とぎ」「味噌汁作り」や配膳、食後のトレー拭きなど職員と利用者が一緒に家事を行うように取り組んでいる。施設の中でもその方に合わせた役割づくりをするよう心がけている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテにて摂取量を記録し、状態把握ができるようにしている。お好きな飲み物を提供している。好みの物を家族様に差し入れの依頼などもし、入所前から嗜好習慣に配慮している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度の歯科衛生士の指導をして頂いているが、その指導に基づいて利用者に合わせた口腔内のケアができるようにしている。利用者のできる事を実践してもらい、できないところに関しては職員が介助をすることで口腔内の清潔保持ができるように支援している（口腔ケアティッシュやスポンジなど）。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握するように努めている。ケア変更時には、検討会を実施し、ご家族に意見を求めている。特に便意がある方に関しては本人様がトイレですっきりできるようにオムツの方でも意思を確認してできる範囲でトイレ誘導している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴槽の種類があり、その時の状態に応じて、本人の希望に沿えるよう入浴を行っている。またご希望に応じて、入浴剤で気分をリフレッシュして頂けるよう準備している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況を把握し、日中でも横になられるよう声をかけている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報が閲覧できる状態であり、主治医や薬剤師とも連携し、服薬支援を行っている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業でお手伝いして頂ける方は積極的に参加して頂いたり、趣味が継続できるよう働きかけを行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望により、一緒に外へ散歩している。ご家族にご本人の意向をお伝えし、外出の機会を作るなど支援している。ご家族の協力を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について個別に対応している。買い物時には、ご自分で支払いを行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして欲しいという御希望の方には、電話をかける等対応している。また、携帯電話から電話がかけれるよう操作方法などの支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作業で絵などの作品を作り、季節感を出す等行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの前で過ごしたり、廊下へ出たりし自由に移動できるようにしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物などがあれば持参していただき、本人が安心できる生活環境になるよう努力している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でパンツ交換が出来る方には、手の届くところに替えのパンツを置くようにしている。何かにつかまりながら歩行できるような環境をつくれるよう工夫している。		